

酪農経営関係ヒアリング御協力者の概要

ニツ山牧場 代表 ^{よしざわ}吉澤 ^{かつじ}克次



- ・所在地 長野県南牧村
- ・就農年 1993 年 4 月
- ・労働人数 5 人（うち従業員 2 人）
- ・飼養頭数 132 頭（うち経産牛 97 頭）
- ・生乳生産量 728 トン/年（平均個体乳量 25.5kg/日）
- ・搾乳形態 パイプラインミルカー
- ・ICT 機器の活用 有（哺乳ロボット）
- ・外部支援組織等の活用 有
- ・平均除籍産次 4.1 産
- ・経営面積 (ha)

採草地	放牧地	青刈り とうもろこし
75	-	25

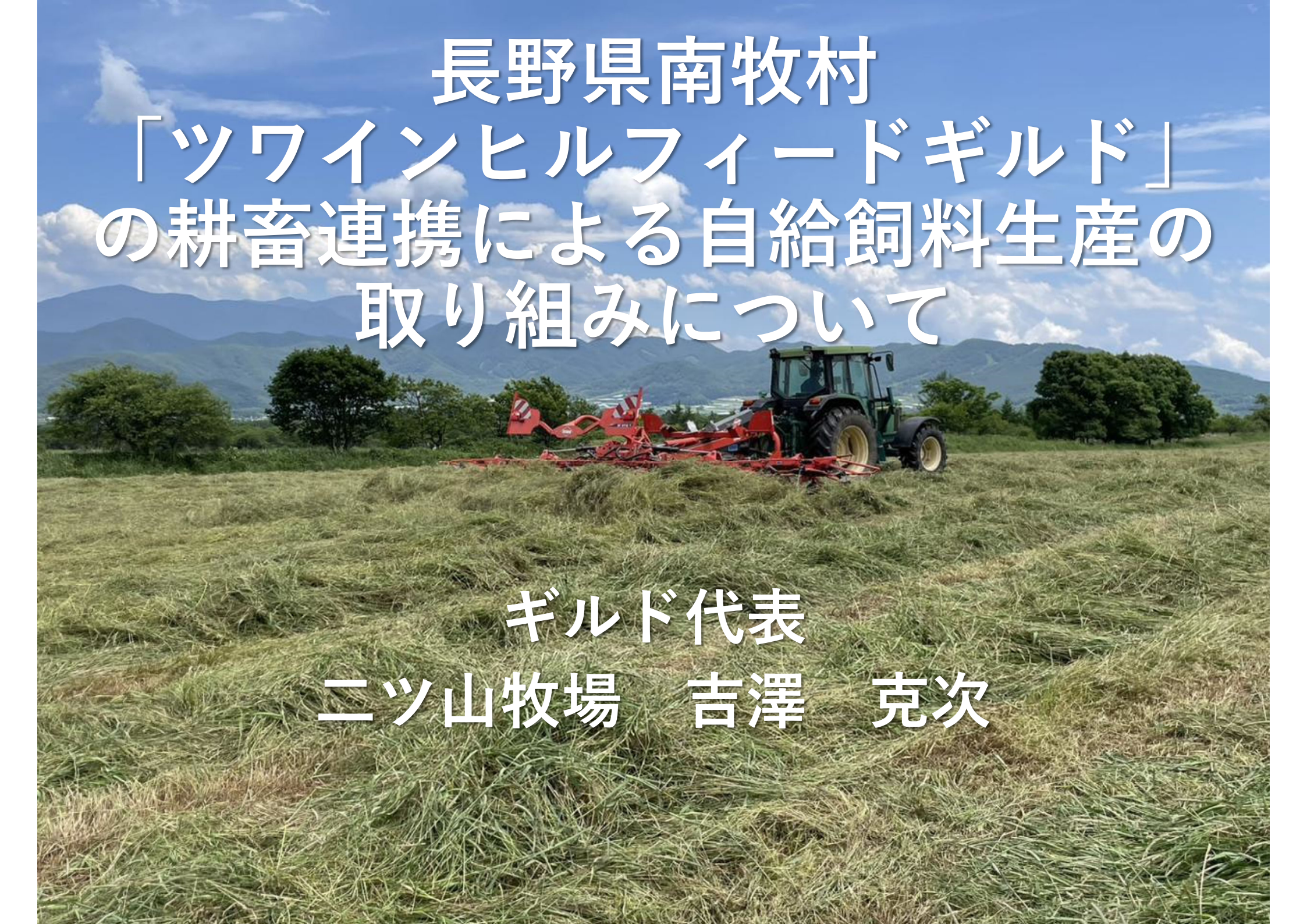
(トン)

年間給餌量の内訳	粗飼料	濃厚飼料
自給飼料量（ロール（牧草））	328.5	-
自給飼料量（青刈りとうもろこし サイレージ）	657	-
購入飼料量（配合飼料）	-	295

- ・経営の特色等

自給飼料を中心とした経営を行っており、地元野菜農家と作業の協力（牧草収穫・デントコーン収穫・堆肥散布・堆肥配達）を行っている。

また野菜農家の農閑期の副収入のため畑の開拓、牛舎改築、環境整備を毎年行い、周りを助け・助け合いながら共に成長をする「結」の精神で経営を行っております。



長野県南牧村 「ツワインヒルフィードギルド」 の耕畜連携による自給飼料生産の 取り組みについて

ギルド代表
ニツ山牧場 吉澤 克次

南牧村の概要

長野県東部 南佐久地域



全国トップクラスの高原野菜の産地



代表自己紹介（ニツ山牧場）



- ・ 名前 吉澤 克次
- ・ 年齢 48歳
- ・ 就農経過 酪農3代目
- ・ 経営規模 経産牛 100頭
飼料畑 約90ha

粗飼料自給率100%で低コスト酪農を目指す（長野県 ニツ山牧場）

- ・牛の産次数を増やし、生涯乳量を増やすことにより、低コスト酪農を実現。
- ・国産飼料は輸入乾草のように品質が安定しないので、それを踏まえて利用。

組織の概要

- ◆ 経産牛 100頭、育成牛 35頭
- ◆ ツワインヒルフィードギルドの代表
- ◆ 草地はチモシーの混播だが、リードカナリーの生育が旺盛

＜令和5年作付け状況＞

品目	面積
牧草 (3回刈り)	75ha (225ha)
青刈りとうもろこし	22ha



取組の状況

- ◆ 当初は、濃厚飼料を多給し、平均乳量30 kg/日量以上の経営を行っていたが、牛への負担が大きかった。
- ◆ このため、飼養管理を見直し、5産どり、25 kg/日量を目安に牛群を管理。乾乳期間は、45～60日程度
- ◆ 初産牛は、搾乳期間を短めにし、搾り始めの乳量を抑えている。

取組のポイント

- ◆ 品質の安定しない自給牧草の給与に配慮して意識的に平均乳量を押さえているが、牛群の平均産歴が長くなることによる搾乳牛の更新コストの低減や飼料費の圧縮により経営は安定している。
- ◆ 天候の変化に即応した牧草の収穫は機械装備の充実と野菜農家と連携したコントラクターによる共同作業で対応。

ツワインヒルフィードギルド設立の経過

①

自給飼料の収穫作業や堆肥の散布作業の有償化

○従来は・・・

長年、自給飼料の収穫や堆肥散布などを親族間の協同作業（無償）で実施していたが、内実は、規模の小さい農家に不公平感があった。



○作業労賃の設定（時給で）

作業者が気持ちよく働ける環境を整備。



ツワインヒルフィードギルド設立の経過

② ニツ山牧場の自給飼料面積の拡大

○自給飼料の作付け面積拡大

購入飼料価格の高騰などを背景に、ニツ山牧場の自給飼料作付け面積の拡大や機械装備の拡充を進めた。



○親族以外の農家との連携拡大

面積拡大に伴う労働力不足を解消するため、親族以外の農家へも作業オペレータを依頼するなど、地域内の作業連携が進む。



ツワインヒルフィードギルド設立の経過

③ ツワインヒルフィードギルドの設立

○外部からの作業受託の増加

機械装備の拡充やオペレーターメンバーの増員により作業受託の仕組みが整ったことで構成員以外の農家から飼料の収穫や堆肥散布の依頼も増加。



○コントラクター設立

平成24年に任意組織の「ツワインヒルフィードギルド」を設立。



ツワインヒルフィードギルドの事業形態

ギルドの構成員

- 畜産農家4戸（酪農3、肉用牛1）
- 野菜農家9戸（臨時雇用を含む）

ギルドの業務

- 農作業の受託（飼料、堆肥関連）
- 作業受託に係るスケジュール管理
- 作業受託料の収受とギルド構成員へのオペレーター料及び機械賃借料の支払い

ギルド構成員及びギルド以外の農家



飼料の収穫や堆肥の運搬・散布作業など

作業委託料金、堆肥代金等の支払い

作業受託の料金体系と経営収支

作業受託のオペレーター料金及び作業機械の賃貸料

(飼料収穫作業と堆肥運搬、散布作業は共通設定)

○オペレーター料金： 1, 5 0 0 円／h r

○トラクター賃貸料金： 2, 0 0 0 円／h r

○機械賃貸料料金： 2, 0 0 0 円／h r

年間の経営収支：収入÷支出＝約 1, 0 0 0 万円／年

○収入：作業受託料など ○支出：構成員への支払い



事業規模

○自給飼料収穫（飼料用とうもろこしの播種作業等も含む）

①牧草（チモシー主体）：約130ha×3回収穫

ロールベール（約500kg／ロール）約2,700個

②飼料用とうもろこし：約25ha

約1,375t（チューブバックサイロで調製）

○堆肥散布（飼料生産圃場及び村内外の野菜生産圃場など）

散布面積：年間約155ha



ギルド設立の効果

○オペレーターの確保

人手があることで、特に牧草の収穫時の天候急変などに柔軟に対応ができる。

○飼料栽培面積の拡大

構成員の野菜農家の伝手などで自給飼料生産圃場の確保や堆肥の販売先の拡大が進む。

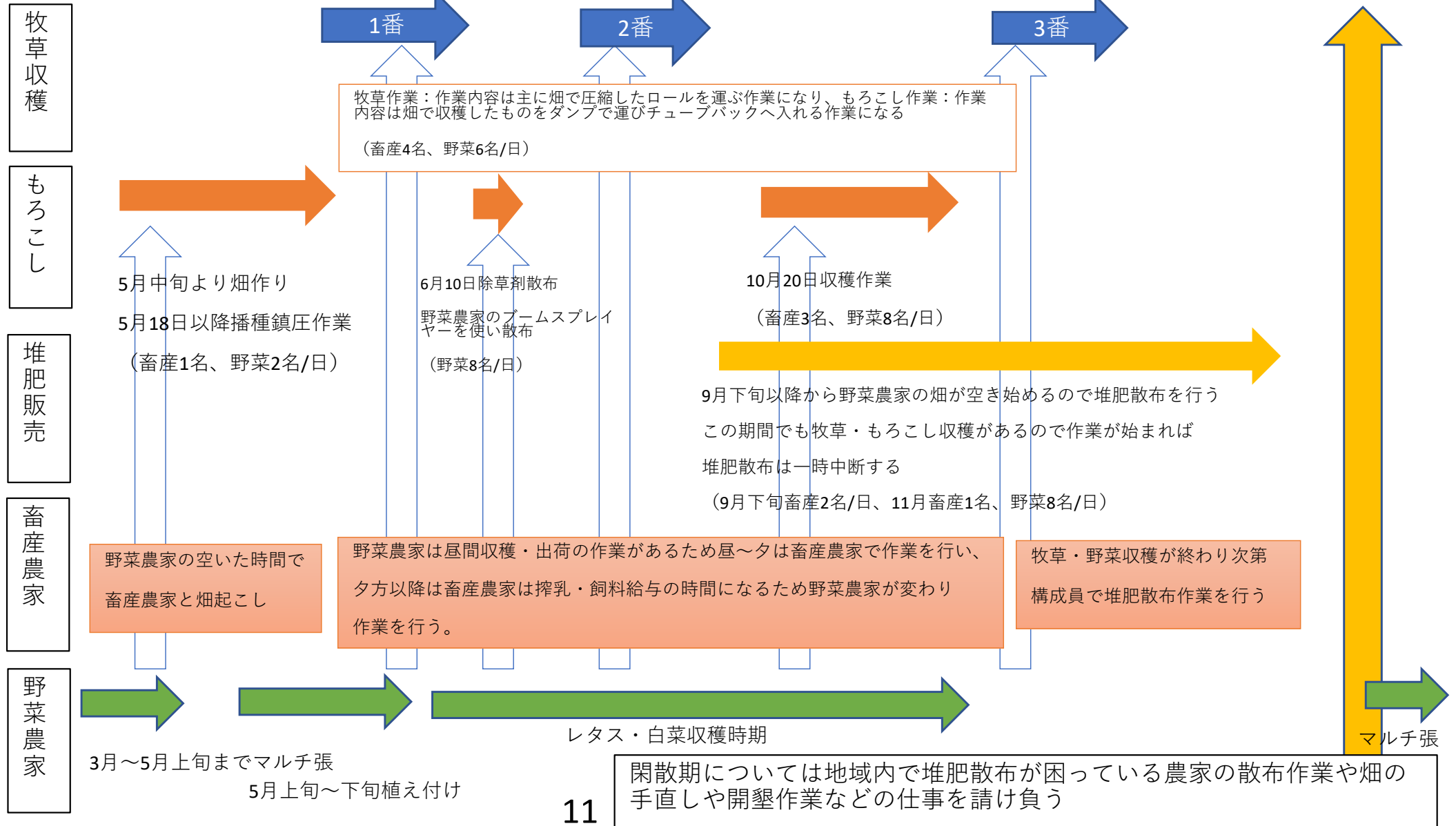
○野菜農家との連携

秋以降の農閑期の野菜農家に堆肥散布などの作業を有償で委託することで、畜産農家と野菜農家が相互利益を得ることが可能になった。



ツワインヒルフィールドギルドの作業体系

月	4	5				6				7	8		9	10			11				12	1	2	3										
日		15	～		28	1	～		7	～	10	～		1	～		7		20	～		30	1	～		7	～	20		1	1	～		



今後の展開

○飼料用とうもろこしの栽培面積の拡大

野菜生産農家との連携による野菜と飼料用とうもろこしの輪作体系の確立、普及。

○堆肥の地域内利用の推進

野菜生産農家への畜糞堆肥の利用拡大

○収穫機械等の資本装備拡充

気象変動に対応した収穫体系の確立による高収量、高品質な自給飼料の生産推進。



持続可能な畜産経営の確立



おわり

ご清聴、ありがとう
ございました

